

資源ごみを出しやすく《願い実現へ前進中》

1年前の一般質問で、立ち当番制度を市民負担軽減の観点から見直すこと、リサイクルステーションを日曜日にも開設することなど、資源ごみ回収方法の改善を求め、大きな反響がありました。その後の検討状況を質しました。

「廃棄物減量等推進協議会で、資源ごみ回収体制の変更、リサイクルステーションの運営などについて協議している。

現委員の任期の2022年度末までに、一定の方向性を見出すよう検討中である」と前向きな答弁がありました。



日本共産党市議
かけの
掛布まち子
電話 53-7727

廃プラ焼却は止めよ

プラごみゼロへ取り組みを

廃プラの焼却・発電は、リサイクルするよりもCO₂排出量が2倍以上多いことを環境省も認めています。新ごみ処理施設で廃プラを焼却するのは止めよと主張しました。

また、深刻なマイクロプラスチック問題の解決へ向けて、ポスターによる啓発だけでなく、

「江南プラごみゼロ宣言」を出すなどの積極的な推進を求めました。

「プラごみゼロ宣言」については、今後のプラスチックごみ削減量の推移や宣言自治体の取り組みを調査研究する」との答弁にとどまりました。

生徒の声で校則の見直しを

日本共産党は、子どもの権利を大事にする学校をみんなで作るための、校則見直し問題に取り組んでいます。

熊本市は【校則見直しは最高の教材】と、生徒が自ら考え自ら決める仕組みを各校でつくり、校則を決定する取り組みを進めています。

江南市でも同様の観点から、生徒の声をもとに校則を見直すよう求めました。



「来年度から中学校に新たな制服を導入予定。この機を捉え、生徒、保護者などの意見を取り入れた校則見直しの議論を各中学校に提案していく」との前向きな答弁がありました。

車がなくても生活しやすい街に

・福祉タクシー券を、使いやすい500円と200円の金券にできないかと質したところ、いこまいカーなどを含め総合的に判断し、市民の足の確保を検討するとの答弁でした。

・新しくできる布袋駅東複合公共施設への巡回バスを要望しましたが、すでに公共交通で行ける駅前なので必要ないとの残念な答弁でした。

・巡回バスとタクシーを組み合わせたみよし市と西尾市の例を



示し、地球環境のためにも、巡回バスを含む公共交通整備計画を作るべきと迫りました。

高齢者の電動シニアカーはレンタルなら介護保険で1割負担に。障がい者の電動車いすは購入なら補助があります。



日本共産党市議
みわ 陽子
電話 54-6712

生理の理解と支援を

・生理やPMS（生理前症候群）の理解を深め、市職員が生理休暇を取得しやすくないかと質したところ「制度があっても使われていないので、理解が深まるようにし、女性が働きやすい環境を作るよう努める」との答弁でした。男女がお互いのからだの仕組みを理解し、助け合う社会にしていきたいと考えます。

・小中学校のトイレにトイレットペーパーと同じように生理用品が置けないかと質すと

「トイレに置いても使われない学校があったので、保健室に置いて相談を受けながら渡すようにする方法にして、継続している」との答弁でした。学校や公共施設には生理用品が置いてあるのが当たり前になるよう運動をすすめていきます。

利用しやすいふれあい収集に

今年度からごみ出し困難世帯の資源ごみを個別収集する「ふれあい収集」が始まりました。

しかし実際の申し込みは10世帯だけでした。申し込み要件が、「要介護3以上で一人暮らしの高齢者。身体障害者手帳1・2級、療育手帳A判定、精神障害者保健福祉手帳1級のいずれかを持っている一人暮らしの障害者」と大変厳しいからです。

事業内容の周知だけでなく、要支援の人数程度まで要件を緩和し、必要とする人が皆利用できるよう求めました。

「150世帯程度を見込んで職員配置もしているため、要件の見直しも含めて早急に検討する」との答弁でした。

